

平成 21 年 3 月期第 3 四半期連結決算発表

平成 21 年 3 月期第 3 四半期決算概要

当社グループは、年度前半に原材料価格やエネルギー関連コストが上昇し、これらのコストアップは企業努力で吸収できるレベルを超えましたため、食品・バイオの両部門ともに適時主要製品の価格改定を実施いたしました。10月以降は原材料価格や原油価格が急落しましたが、いまだに高いレベルで推移しており、こうした状況のもと、食品・バイオの両部門ともに生産性の向上や新製品上市による拡販などを促進してまいりました。

食品部門は、油脂加工品、総菜、ミネラル酵母の出荷は好調でしたが、イーストやパン品質改良剤・発酵風味液やフラワーペースト等の販売量は減少いたしました。また、主要製品の価格改定をしましたが、原材料のコストアップを吸収しきれませんでした。

バイオ部門は、医薬品業界の業界再編が進み、製薬企業の研究開発施設の統廃合や外資系製薬企業の研究部門の日本からの撤退などにより、需要の減少傾向が見受けられますが、診断薬原料や研究用試薬を主体としたバイオサイエンス事業は好調に推移いたしました。また、ライフサイエンス事業は、実験動物や養魚用飼料は低調でしたが、受託飼育等の研究支援事業やペットフードの受託生産がこの分をカバーし、堅調に推移いたしました。

連結業績につきましては、売上高は拡販や価格改定効果により 482 億 57 百万円となりましたが、原材料コストの継続的な上昇と価格改定の遅れにより、経常利益は 12 億 52 百万円、四半期純利益は 6 億 35 百万円となりました。

平成 21 年 3 月期 今期連結業績予想

平成 21 年 3 月期におきましては、食品部門は、製パン・製菓業界向けのみならずそれ以外の業界につきましても、新製品開発の上市を進め、出荷伸長を図ってまいります。特に製パン業界に対しましては、イースト・パン品質改良剤・発酵風味液をセットにした新製品提案を行い、拡販を図ってまいります。バイオ部門のバイオサイエンス事業は、生化学・免疫製品を中心に組換え技術を用いた新製品の上市を促進するとともに、アレルギー・残留農薬等の分析事業の業容を一層拡大してまいります。また、ライフサイエンス事業は、遺伝子をキーワードにした実験動物と生化学・免疫技術の融合により、新市場を開拓してまいります。

更に、食品・バイオ両部門ともに、海外子会社を活用して積極的に販路を拡大してまいります。

連結業績につきましては、平成 20 年 9 月 24 日に発表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の業績予想に、変更はございません。

以上